東九州支部報

第７８号

公益社団法人日本山岳会東九州支部
2017年7月25日(火)発行

月例山行：古処山(左上・４月六日)、津波戸山(右上・５月１４日)、犬ヶ岳(左下・６月４日)

目　　次

１．支部活動報告		若者よ目標を持ち給え	10
古処山（４月月例山行）	2	百山完登(第３回)	11
津波戸山（５月月例山行）	3	より安全な登山のために(No25)	12
犬ヶ岳・求菩提山（６月月例山行）	3	三角点と山城探訪シリーズ(No22)	14
九州五支部懇談会	4	私の無名山ガイドブック(No65)	15
スズタケ枯死とシカの食害調査(第９回)	6	３．会務報告	
研修山行（麗谷遡行）	7	本部通常総会出席報告	16
２．個人投稿		支部の各種会議	17
ペンリレー(第25回)「山登り」	7	４．お知らせコーナー	17
祖母・傾山縦走報告	8	後記	20
大崩山アケボノツツジ観賞登山会	9		

古処山(859.4m)

４月月例山行報告（4 月 16 日）

興 田 勝 幸(8614)

嘉穂アルプスとは福岡県嘉麻市と朝倉市にまたがる古処山（859. 5m）屏山（927m）馬見山（978m）を指し、2016 年度の日本山岳遺産に認定されている。九州では九州中央山地五家荘に続いて２カ所目の認定。「日本山岳遺産」とは次世代に伝えたい豊かな自然環境や人と自然の関わりを有し、それらを守り、活用するような地元の活動が盛んな山や山岳エリアを、日本山岳遺産基金が認定するものです。

認定に当たっては地域からの自薦に基づく日本山岳遺産基金事務局が外部有識者のアドバリー・ボードからの意見を参考にして決定します。嘉麻市の嘉穂益冨城祉の登り口の掲示板に嘉穂アルプス云々が記してありましたので日本山岳遺産とはで検索して見ました。

今回担当の古処山は数年前に秋の四国石鎚山（1982m）の月例山行以来のリーダー。昨年の４月の熊本県の京丈山（1473m）の予定が地震の影響で中止となり久しぶりのまとめ役となった。

集合場所の大分駅の上野の森口は私にとって初めての場所で不安もあったが、同行予定の方々が集合時間午前６時を前に集まり始め安堵した。総勢 15 名、車４台に分乗して大分自動車道を北上、甘木インターで一般道に下りて国道 322 号を、城下町秋月経由して登山口へ向かう。

当初は朝倉市の野鳥の古処山登山口より入り、九州自然歩道経由で古処林道の終点、五合目登山口を経て登る予定をしていたが、安部さんが運転手の送迎をしてくれるというので、国道 332 号をさらに進みんで古処林道終点、五合目登山口まで直行することが出来て、１時間ほどの短縮となった。

林道終点の登山口は駐車スペース 5～6 台。良く整備された石畳の登山道が続き、やがて山中唯一の水場である八合目の水舟につく。稜線近くになると古処山にしか見られない国の特別天然記念物ツゲの原始林がお出迎えだ。「古処山のツゲの原始林は国の天然記念物であり、推定樹齢千年以上のツゲはここ古処山だけ」と書枯れている。稜線に出て左折すれば古処山に至るがもうひと山登ろうと、右に屏山（927m）を目指す。稜線上の緩いアップダウンの道を約４０分で展望の開けた屏山の山頂に着く。眼下に筑豊盆地が一望で出来る。

（屏山山頂にて）

ここで全員集合写真を撮って古処山へと往路を引き返す。分岐に戻り、ふたたびつげの純木林の中を古処山へ。屏山から約５０分、ごつごつした石灰岩が現れると古処山の山頂である。信仰登山の山の証かお社が鎮座している。山頂は広く、ここで昼食を取ることとする。

遠江さんの差し入れの冷やしそうめんは、汗ばむ気温の当日としてはありがたかった。しばしの後、山頂を後にし、点在する仏さまの見送りを受けながら八丁越コースを下る。下山口の国道出合いには安部さんが迎えてくれ、林道終点まで車を取りに送って貰う。大幅な労力と時間の低減に感謝です。

帰途は安部さんの先導で嘉麻市の益冨城趾を見学。戦国武将黒田官兵衛や後藤又衛や母里太兵衛に思いをはせ現地解散した。

当日の総括の場でも那須高原雪崩遭難事故などの例を出して皆に話したが、登山に絶対安全はないない。故に、それが登山の魅力でもあり、ある意味、魔力とも言える。絶対安全に一歩でも近づく為には登山の知識や技術の習得、そして信頼出来る仲間や組織であろう。山岳会はその任にたり得る組織と確信する。大いに活用し愉しい山登りの一助にしましょう。

【山に感謝・仲間に感謝】

林道終点五合目～（40 分）～水舟～（20 分）～縦走路出合～（35 分）～屏山～（50 分）～古処山山頂～60 分～国道出合い

参加者（順不同）…興田勝幸（ＬＤ）、飯田勝之（ＳＬ）、牧野信江、下川智子、浅野総一、丹生浩司、尾家暁夫、久知良美登里、安部可人、遠江洋子、後藤英文、松浦一幸、木下恵子、賀来和子、笠井美世

津波戸山（760m）

５月月例山行報告（5 月 14 日）

園 田 暉 明（13135）

会員の中島さんと知人のＳさん同乗で、集合場所である大分駅には寄らず、7 時過ぎに大分市を出発、国道 10 号を山香町大字向野の登山口に向かう。晴天の登山日和で、窓から吹き込む風が心地良い。

8 時半頃、黄色の法被を着た「津波戸山を守る会」の方数名が待ち受ける登山口駐車場に到着。当日は、津波戸山春祭りの特別な日で、山の案内等のサービスを頂けるらしい。

会員、会友、支部関係の参加予定者も次々に到着、一般登山者も加わって体操。

9 時頃、谷沿いの安全なコースのみを通り山頂を目指す、直登組数名が出発した後、しばらくして、残りの鎖場経由組の総勢 20 名位も出発する。

大半が休耕となっている棚田の中の舗装された道を、しばらく進むと樹林帯に入る。

ここからは昔からの自然道で登山開始という気分になる。コース沿いの石垣の残る海蔵寺跡で、衣服の調整も兼ねて小休止。古い溜池の横を過ぎ、しばらく進んで左側の崖に取り付く。

いよいよ岩尾根を通る鎖場コースの開始である。垂直に近い岩場を鎖に掴まりながら登り尾根に出て、少し尾根の広くなった箇所で小休止。

全山新緑の中に、鋭い岩峰群や荒々しい岩尾根。壮大な景観に魅了され感嘆の声。バランスをとりながら、痩せ尾根を慎重に山頂方面へ登って行くと、岩場の所々に、下部に番号が彫られた、高さ６０㎝ほどの石仏。

「地元の有志が大正年間に弘法太子八十八か所の霊場と銘打って、設置したものである。」と、同行案内の守る会の方。

鎖設置の難所を何度も越えて、最後に、針の耳と言われる岩の間を抜けて安全直登コースに戻る。石のガレ場を上ると「水月寺奥の院」で、横にある岩の洞窟からは、仁門菩薩の硯石水と呼ばれる、湧き水が出ていた。

少し上って津波戸山の主尾根に合流、同尾根を左に進んで正午丁度、樹木に覆われた山頂に到着。少し進んだ見晴らしの良いか所で昼食となり、本日の主人公で同地区に住む会員、宮本真理子さんのご主人から差し入れされた甘酒を皆で頂く。

三角点山頂で全員集合の写真を撮ったあと、13 時少し前、直登組が使用した沢コース利用で下山開始。

（津波戸山の岩稜線を歩き）

途中からコースの左側にある鎖場コースの岩尾根に上がって、最後の八十八か所目を示す石仏に手を合わせる。

スリル感一杯で、垂直に近い崖を、５０メートル程の鎖を利用して降り、１５時頃、全員無事に登山口駐車場に到着

津波戸山の景観を堪能すると共に地方の高齢者が地域興しのために懸命に励んでいる姿に感銘を受けた１日でした。

参加者…ＬＤ興田勝幸、ＳＬ飯田勝之、園田暉明、久保洋一、牧野伸江、下川智子、中島洋祐、尾家暁夫、阿部可人、長野佳子、遠江洋子、今山アヤ、宮本真理子、柳瀬里子、岩崎真琴、松浦一幸、賀来和子、木下恵子、笠井美世（以上支部関係者のみ）

求菩提山（782m）犬ヶ岳（1130．8m）

６月月例山行報告（6 月 4 日）

浅 野 総 一（15201）

大分、福岡県境に位置する犬ケ岳、求菩提山（豊前市）は天台宗修験道の山であり、今も名残の地名や民話が残っている。

晴天の６月４日（日）午前６時、大分駅から豊前市の犬ケ岳登山口を目指し、１４人が車４台で出発した。

大分ICから東九州自動車道を北上して豊前ICで下り、県道３２号を経由して約１時間３０分で登山口の駐車場に着いた。

午前７時４０分、犬ケ岳登山口から笈吊（おいづる）峠を目指し、犬ケ岳林道からウグイス谷ルートを上り始める。約１時間で経読林道別れに至り、林道を５４０ｍ歩いた後、傾斜を増した登山道を約３０分上り、午前９時２０分に笈吊峠に着いた。途中、宇佐市の木下さんが合流し、参加者全員がそろった。

ウグイス谷の登山道には、目立つ黄色の板に「A－１」「A－２」などの記号を表示した案内標識が設置されていた。豊前市によると、登山者が警察や消防に緊急通報する際に現在地を記号で説明するための標識という。山の案内標識や登山道の整備には賛否両論あるが、ここでは行政が緊急時の対応を優先している。

笈吊峠で一息入れ、スリルのある笈吊岩へ。かつて山伏が背負っている笈を背から下ろし、岩を登った後に吊り上げて通過したと伝えられる難所。鎖が張られた岩の登り、う回ルートのいずれかを各参加者の判断で選んだ。午前１０時２０分に犬ケ岳（鷲の尾）に着き、記念撮影。山頂から、恐れ淵コースを分ける大竿峠を経て、英彦山を望む一ノ岳に午前１１時２０分着。昼食をとり、久保リーダーの提案で全員が輪になって自己紹介をし、「今年の目標の山」などを披露した。

正午に一ノ岳を出発し、県境の稜線から福岡側に延びる尾根道を歩き出す。緩いアップダウンを繰り返しながら杉ノ宿、世須岳、虎ノ宿へと、木漏れ日の道を進んだ。胎蔵界護摩場跡からひと上りで求菩提山の山頂へ、午後２時だった。

求菩提山頂の国玉神社上宮に参拝。上宮から山腹の

（求菩提山頂上にて）

中宮（護国寺）にかけては、「求菩提の鬼たちが一晩で築いた」と言い伝えられる８５０段の「鬼の石段」がある。急傾斜の石段の下りに脚の痛みを感じ、立ち止まって振り返ると、延々と続く古い石段に信仰の力の強さを見る思いがした。麓近くでヒメシャガの花にも出合い、午後３時に座主坊園地に下山した。（写真は中野稔さん撮影）

参加者＝CL 久保洋一、SL 中野稔、牧野信江、中島洋祐、阿部幸子、浅野総一、宮原照昭、安部可人、長野珪子、石川洋祐、賀来和子、賀来浩子、松田信子、草野和美、木下恵子

九州五支部懇談会と足立山と風師山

宮 原 照 昭（15683）

足立山

今日は下関で九州支部五支部懇談会が午後１時からあるが、足立山に登りたいため朝６時30分に大分を出発した。足立山には小文字山登山口と妙見神社登山口があるが、今日は時間が無いので妙見神社登山口から登ることとした。

妙見神社登山口には８時４０分に着く。私と若月さん、神田さんの３人で登山開始、前もって調べたら８０分かかると書いていたのでハイペースで登る。

序盤の登りはきついが登山道は歩きやすく新緑の道なりを登っていくと、砲台山と足立山の分かれ道があり足立山へと進む。少し行くとまた上宮と足立山の分かれ道だ、足立山頂上に向けて進むと階段の急登が１５分位続く、途中展望台で休憩すると左方向に小文字山が良く見える、後もう少しだ、登山口から約１時間でやっと頂上に着く。

先ほどの小文字山が光を浴びて見える、三脚をザックから出して写真を撮ろうとすると大きなミツバチが飛び回りながら歓迎してくれたが、頂上から離れない。ハチを避けてみんな降りていく中、残っている１人に写真を撮ってもらい、急いで下山する。登山口には５０分で着く。慌てて火の国ロープウエイの近くﾚｽﾄﾗﾝで昼食をすませて、五支部懇談会会場の下関市の「海峡ビューしものせき」へ、１２時３０分会場に着いた。

五支部懇談会

今回主催当番の北九州支部、関口支部長の歓迎のあいさつのあと、５支部の支部長報告。そのあと記念講演は鹿屋体育大学の山本正嘉教授が「安全登山のために」講演をする。その内容は、近年ベテラン登山者を自認する高齢者が、自分の体力過信で、日本アルプスなどでの転倒と滑落が多いため、長野県などは数値を計算し、山などコース定数を付けているとのこと。転倒・滑落など起きないため、近くの山に定数を付けて安全な登山をするようにとの講演でした。しかし私は近くの山を決めて定数を選ぶことが出来るのかと思いました。

講演が終わり６時から懇親会が始まります。関口支部長のあいさつのあと、次回の五支部懇談会主催の当番となっている東九州支部の加藤支部長の乾杯で始まりです。

宴たけなわとなると、各支部の出しもの披露。東九

（五支部懇談会・懇親会場で）

州支部は全員ステージに上がって「坊がツル讃歌」の合唱。途中から他支部会員も加わっての大合唱。宮崎支部のひょっとこ踊りに大にぎわいで、福岡の炭坑節は全員が踊りの輪に入って盛り上がりました。

お開きのあと、支部長の部屋に集まって支部の二次会です。９時過ぎまで飲み、そのあとは熟睡しました。

槙有恒記念碑の風頭山

いつものように私は朝５時３０分に起き散歩に行く。関門海峡まで来ると前方には昨日登った足立山だ、すがすがしい空気を満腹し帰路へ。朝風呂に入り朝食をした後、９時前弁当を貰って出発する。コースは「歴史・史跡・散策コース」と「槙有恒記念碑・風師山コース」のコースには分かれているが、東九州支部は全員１７名中１４名が山行に参加。各支部合わせて総人数約４０名以上で登ることになった。

関門トンネルを通り門司区役所駐車場に車を駐車、登山開始。清滝公園から階段を歩くと車道に出た、藤の花が満開の下をさらに行くと約 20 分で又車道に、あとはアスフルト道を上がって行く、天気も良く見渡しも良く道沿いには野ばらが咲いてとてもきれいだった。

新緑を見ながら徐々に上がって行くと、北九州支部の役員が所々で高浜虚子の句碑など、道々の説明をしてくれました。さらに登っていくと見晴らしの良い場所である風頭山駐車場に着く、一般の人はここから登山口になるそうです。

ここから登山道を登ると、約１５分も登りで風頭山の頂上です。（正確にはここは風頭山で、風師山はここから２００南の小ピーク）

１８０度見晴らしも良く右側は昨日宿泊した「海峡ビューしものせき」・開門海峡・厳流島などが、左には矢筈山など見える、

支部ごとに写真を撮り朝貰った弁当を食べた。頂上

（風頭山・槙有恒記念碑前で）

では槙有恒元日本山岳会会長の記念碑があり、これを設置した北九州支部長の、その意義や経緯などの説明がありました。

熊本支部は矢筈山まで縦走するということで先に出発。東九州支部は皆と一緒に登ってきた道を下山し、１３時３０分に駐車場に到着しました。まだ時刻も早いので、私たちグループは、門司港レトロを１時間位見学したのち帰路に着きました。

参加者…加藤英彦、西孝子、星子貞夫、飯田勝之、阿南寿範、木本義雄、宮原照昭、工藤吉子、若月美智子、土屋多喜子、丹生浩司、久知良美登里、遠江洋子、清水道枝、清水久美子、秋吉けさみ、神田美代子（西、阿南、木本は懇談会・懇親会のみ参加）

スズタケ枯死とシカの食害調査

（９回目）

飯 田 勝 之（10912）

去る６月３日（土）スズタケ枯死とシカの食害調査が本谷山の西の稜線で行われた。５年前、日本山岳会が公益社団法人へ移行が起点となるこの調査活動は、今回で９回目だ。公益的事業として、九州のほとんどの山域でスズタケの枯死が進行し、稜線の原生林が荒れてきている実態を受けて、その実状調査を手がけてみようということになった。ちょうどそのころ、県の委託を受けて調査を開始していた大分県植物研究会の故生野喜和人先生から、山登りのベテランたちの力を借りたいと共同作業の持ちかけがあり、意気投合して開始したのが始まりである。

本谷山の西の稜線に県が設置した観測地点（ネットで囲った中と外のスズタケの成育状況を測定）の定点観測と、尾平越から本谷山に至る稜線の樹木の食害状況や植生状況の調査を行うのがこの作業である。

しかし県の委託によるこの調査は平成２８年度で終了し、その調査報告書の作成も終わったところである。そこで今後のことに協議するため本年２月、大分市の某居酒屋に研究会メンバーと、調査に加わった我が支部メンバーが集合。酌み交わしながらの相談である。

その結果今後も独自に調査を継続することにより、長期的にシカの食害状況や、スズタケの枯死と復元の状況、森林や樹木の変化などを記録に残し、検証していくことに意義が大きいと言うことで一致し、県が設置した定点観測のネットなどはそのまま残してもらい、引き続き共同作業を進めることとなったのである。その最初の作業がこの日であった。

快晴の天気に恵まれた午前７時、いつものとおりの緒方町「道の駅原尻の滝」に集合したのは、我支部のメンバー会員８名、研究会メンバーも８名で、まずは今日の作業のミーティングをして、車に分乗して尾平トンネルの登山口に移動。

８時３０分に登山開始で、約３０分で尾平越の稜線に着く。今回から定点観測と稜線移動観測を６月と１０月に交互に実施することになり、今回は稜線移動観測のみとなった。

我々に任された作業は前回までの調査で見つけて、目印を付けたシカの食害樹木以外の、新しい食害樹木を見つけて目印を付け、その樹種や、木の大きさ、食害の樹皮の広さなどを記録することである。

今回の調査では、新しい食害は思いのほか少ないことが分かった。しかし、森林管理署が設置した金属ネットで囲まれた中の林床と、その外の林床とでは下草の成育に格段の違いがあることが一目瞭然に分かった。

祖母山から傾山、さらに新百姓山から夏木山を経て桑原山や大崩山・鬼ノ目山などに至る稜線は、かっては２ｍを越すスズタケの猛烈なブッシュに被われていて、これらの縦走路はごく細い踏み分け道の深いヤブをこぎ分けながら、横幅の広いスリングザックを担いで、悪戦苦闘しながら歩いたけど、今はもうその面影すら残ってはいない。

スズタケはほとんど枯死してしまい、その後に生える下草もシカに食べ尽くされた跡が、広い範囲で裸地になっていて、表土が洗い流されたあとも痛々しい。このままだと、大雨や台風などでますます洗い流されて、稜線の崩壊につながるのではないかと懸念される所もあった。今後の調査見守りが必要だろう。

調査団一行は３時間かけて本谷山山頂まで、今日の調査記録をしながら登り、山頂で弁当を開いてゆっくりと休憩。そのあと下山開始で、午後３時３０分、尾平トンネル登山口に到着。ここで次回の打ち合わせなどをして、現地解散となった。

（作業を終えて、本谷山山頂で）

参加者…加藤英彦、阿南寿範、飯田勝之、宮原照昭、石川洋佑、渡部昭三（会員外加藤）

支部研修山行

麗谷周回　沢歩き（6 月 17 日(土)）

指 原 里 美　(会友 216)

コース:深耶馬溪公共駐車場 9 時 40 分発～両国橋～第 2 布目～第 2 布目を遡行～鳥屋 12 時～遊歩道～麗谷出合～第 1 布目～公共駐車場 15 時着

講師の安東氏に、現地で地図を読みながら色々な事を教えてもらった。

上流から下流を見て右側が右岸だという事、沢登りの際は高低差があると疲れるので基本は水線を行くという事なども学んだ。

氏曰く、沢登りはテープのある登山道と違い、自分の判断でコースを見極めて進むので、より自然を楽しめ、お薦めとの事。全くその通りで、普段の山登りとはまた違う楽しさが大いにあり、沢歩きがいっぺんに好きになった。

自然大好き、生き物大好きな私は、今回も様々な方達と出会えて嬉しかったが、何と言ってもアカショウビンのさえずりには感動した。滅多に聴く事の出来ない、美しい声だった。これだから山はやめられない。ありがとう、アカショウビン。

さて、参加者の振り返りでは

① 荒れた登山道では、人に切られた木などのサインを見逃さない様にすると、道迷いしにくい。

② ロープを巻くときに、真ん中から巻くと、時間の短縮と、使用時に両端からハーネスへのセットなどの時間の短縮、システムの素早さなどの点で良かった。

③沢靴と登山靴を交互に脱ぎ履きする際、沢靴をカナビラでザックに下げれば、乾かす事も出来て良かった。

が、登山靴はそうすると、濡れる事もあるので注意したい。

などの意見が出た。

ロープワークの勉強もでき、さすが安東氏、これぞ山岳部の研修山行の王道だと思う事ばかりで、内容も濃く、有意義で楽しい一日だった。

麗谷はその名の通り清流で、汗ばんだ体に沢の水は心地よく、学びながら仲間と共に歩く山は最高。

皆様、色々とお世話になり、ありがとうございました。

講師：安東桂三

参加者：笠井美世、指原里美、生野栄城、松浦一幸、山岡研一、生野昭子（会員会友外）

個人投稿

ペンリレー・第２５回

山登り

牧 野 信 江(14455)

私が一番最初に山登りをしたのは 35 才頃、家族で坊がつるまで歩いた時でした。坊がつるで疲れて，草の上に横になって休んだことを覚えています。きつかったけどその後の 1 週間は、気分も体調も良く、また山に行きたいと思いました。

市報を見て県民登山教室に参加していました。亡くなられた梅木秀徳氏が引率された時もありました。その頃、参加者の人から山の会があると聞いて行った所が、西孝子さんのサニースポーツでした。会友に入れてもらいました。一番下の子がまだ 5 才ぐらいで、山登りには参加できなかったけど、西さんの手書き印刷の葉書が来て、

それを見るのが楽しみでした。

その後だんだん参加できるようになり、テント泊も経験しました。最初の頃は、前日、眠れるだろうか、寝不足で登れるだろうかと心配していましたが、だんだん慣れていきました。仕事が、皮膚科開業医なので、ふだん体を動かしません。

山に行くと、体は使うけど気は使わないのでいいです。山に行くようになって体力がついたような気がします。2 年前に道迷いの本を読みました。一人で山に行って道に迷ったら怖いだろうなと思います。山の良さは、林の下を歩いていると緑がとてもきれいで木から元気をもらうような気がします。

今は、日曜日の東九州支部の山行が楽しみです。平成 6 年に世界一美しい散歩道としてニュージーランドのミルフォードトラックが雑誌に紹介されていました。その 4 年後にアルパインツアー株式会社に申し込んで参加しました。その翌年に、ネパールのエベレスト街道をエベレストビューホテルまで歩きましたが、酸素が少し薄いためか歩くのがきつく、食欲も落ち、自分は高所は無理だなと思いました。足が弱くなったら山に行けなくなるので、日曜日は近くの高尾山公園を散歩するようにしています。いつまで山登りができるかわかりませんが、長く楽しめたらいいなと思っています。

ペンリレー　次回は福丸勇三（13281）さんにお願いしました。お楽しみに。

祖母・傾山縦走報告

宮 原 照 昭（15683）

私は東九州支部の会員になり、いつかは祖母・傾山縦走を達成したいと思っていました。そしていつものメンバーと相談し、５月６日から８日に４名で縦走をすることになりました。

５月３日の祖母山の山開きに下見し、６日の朝６時３０分自宅を出て櫻井さん・大渡さん・丹生さんの４名で出発です。竹田市神原の祖母山登山口に８時２０分に着くと、直ぐに準備をして登山を開始しました。山道を登って行くと左には沢が流れていて滝もあり、その水音に癒されながら５合目の山小屋に着きます。所要時間３５分でした。

山小屋で休憩したのち、登山道を登って行きます。新緑の緑に包まれて、急登が続いていましたが、２時間で国観峠へ。五ケ所コースからの道と合流するところで、明るく開けた広場は峠というより祖母山の肩でした。

前はここから登ってきたなと思いながら、あと少しで９合目小屋なのでゆっくりと登って行きます。順調に登り、１２時前に小屋に着きました。３日の山開きの時に登ってきたよりより早いペースで、予行練習をしていて良かったと思いました。

小屋には先客が一人いましたが、一番いい場所を確保し、お昼用に持ってきたビールとウイスキーを飲んだら眠たくなり昼寝です。５時前に目が覚めたら少し頭が痛い、飲みすぎだ。そのころ佐藤さんグループ到着しました。

夕食は豪華な焼肉を炭で焼き、ビールと焼酎とウイスキーなどみんなと食べていると山小屋の加藤さんが到着。加藤さんと福岡の人たちと山小屋のルールなど話をしていたら眠くなり、早く寝袋に入りました。直ぐ熟睡しましたが、午前４時間位で目が覚め、それからはウトウトしていたら５時前です。

佐藤グループの人達は６時出発なので、途中まで一緒にと頼み、直ぐにパンとゼリーを食べ、用意をして一緒に祖母山山頂へ。

（祖母山頂にて）

天気は曇りで、カンカン照りでもなく登山日和です。これからの縦走コースを眺めて、傾山まで遠いなぁと思いながら出発します。

山頂からの最初の下りは、ロープと梯子で少し足滑らせたたりして、狭い岩場を降りたり、緊張連続です。

天狗岩を越すと少し余裕がでてきました。天狗岩の上から見渡すと、左には大障子岳、前障子そして遠くには目ざす目的の傾山だ！障子岳手前の小広場に、アケボノツツジが咲いていましたが、写真を撮る余裕もなく障子岳へ。そして古祖母山に向けては岩場などあるので慎重に行きます。

古祖母山頂に着いて後ろを振り返ると、朝発った祖母山が遠くに見えます。山頂からは長い下りで、尾平のトンネルの上を過ぎ、尾平越の小広場へ到着。１１時を過ぎていたし、水場もあるのでここで昼食しました。お湯を沸かしラーメンと非常食を食べて休憩。

まだかなりある。少しずつ進んでいくが、なだらかな登りが続き、以前ススダケの調査で歩いた道を登っていくと、やがて本谷山山頂です。段々ペースが落ちて来て、みんなの息も激しくなってきて、笠松山山頂にも気が付かなく通り過ぎてしまいました。

天気も良く、段々遠くなる祖母山を振り返りながらもう少しだ！と気持ちをふるい立たせながら４時前に九折越山小屋（あけぼの山荘）にやっと到着。小屋の回りにはアケボノツツジが咲いていてとてもきれいでした。

直ぐに丹生さんと櫻井さんが九折越の下にある水場に水を汲に行きます。私と大渡さんは休憩した後、疲れながら食事の準備をしていると、二人は随分早く戻ってきました。５時前だが何もすることがなく、ハンゴウでごはん炊き、食事をとるが、焼酎も少しか無く、食事も食欲もなく、皆で明日の相談をします。三つ坊主コースを諦め、水場コースに決めて就寝。

朝浅い眠りのなか、５時起きて準備して傾山へ出発です。今日は快晴で、登山道はあけぼのツツジが満開の中、休憩していると下から一人登ってきました。聞くと九折から朝早く出たとの事でした。

（傾山山頂にて）

岩場を登ったり降りたりして、傾山に到着し頂上で万歳、７時３３分。頂上から祖母山・障子岳・古祖母山・本谷山・笠松山を見ながら前に登った時より気分が違うと感じました。

下りは今まで通ったことのない、三つ尾コースを下ります。簡単に考えていたが尾根を登ったり下ったり繰り返す道は急登で、足が棒になるほどきついがもう少し。

三つ坊主コースの分岐点まで来たところで休憩。このあとは尾根の下り道。達成感を味わいながら九折の登山口に到着。１２時１７分でした。

３日間を振り返って見ると、１５ｋｇのザックを担ぎ、祖母山までの急登、祖母山からの梯子とロープの下り、本谷山まで幾つもの上り下り、ゆっくり道の九折越小屋までの長さ、私たちグループだけの泊り等色々体験させていただきました。

今までにない経験等で、仲間達の励まし合いで達成したことを踏まえて、これからも県外の山などに事前に計画を立てて登りたいと思います。

参加者…宮原照昭・櫻井依里・丹生浩司・大渡崇夫

大崩山・アケボノツツジ観賞登山会

H29，4，30(日)　木 下 恵 子（会友 186）

「あの大崩山に初心者でも登れるコース！？」「アケボノツツジのトンネル⁉」こんな言葉に惹かれ、参加させていただいた今回の登山会。色々な山に登った方が、「九州で一番おもしろい山」と言っていたのが心に残っている憧れの山でもあった。

当日は大分駅南口に５時集合。早い時刻にも関わらず、予定の 12 名が時間前に全員集合。北川はゆまで４名が合流し、総勢１６名が４台の車でいざ大崩山へ。雲一つない晴天に恵まれ、車窓から見える山々の新緑に心も弾む。

日之影バイパスを走り、鹿川キャンプ場・今村橋を曲がるといよいよ本格的な山道になった。クネクネと曲がり、離合もままならない細い道で、未舗装の部分

はかなり凸凹も。比叡山、矢筈岳、鉾岳などを眺めながら、出発から約３時間でようやく宇土内谷林道分岐登山口に到着。運転者の方々のハンドルさばきに、ただただ感謝するばかり。大型連休らしく、県外ナンバーの車も数台ある。準備をし、いよいよ大崩山登山のスタート！

しばらくは石ころだらけの林道を行き、１０分ほど歩いて山道へ。最初から急な登りだ。スギ林の中の急斜面を黙々と歩いた。林道から３０分ほどでスギ林を抜けると自然林の尾根に出た。尾根道は展望が得られるようになり、気分的にもヤレヤレ。このころからお待ちかねのアケボノツツジが見られるようになった。

淡いピンクの花はまさに曙色。青空との対比のきれいなこと。行けども行けどもアケボノツツジの木々が続いている。いつもよりも開花時期が遅いらしく、まだ開き始めたばかりのようだ。蕾が全部開花したら確かにピンクのトンネルであろう。想像しただけでも圧倒されそう。稜線を吹きわたる心地よい風を楽しみながら頂上を目指した。アセビのかわいい花にも心が和んだ。

登り始めてから約２時間半で大崩山頂の石塚に到着。３６０度の大パノラマ。しばらく雄大な景色を満喫し、昼食タイム。手作りのごちそうもいただき、心もお腹も満たされた。昼食後は遠くに見える山々の説明をしていただいた。祖母山、傾山、夏木山、木山内岳、五葉岳等々、山群の壮大さが伝わってきた。石塚から５

（大崩山三角点山頂にて）

分の大崩山頂上には立派な一等三角点があった。全員で記念写真を撮り、下山の途についた。

下山時はさらにアケボノツツジにたくさん出会えたような気がした。休憩時間にはあちらこちらで写真撮影が。花の色が濃いピンクから白っぽいピンクまであることも再発見できた。

下山後は鹿納山登山口まで林道を車で行き、花崗岩の特徴ある大岩峰や巨大な一枚岩を流れる清流の景色も楽しむことができた一日だった。企画・運営にご尽力下さった方々、一緒に安全な登山をして下さった参加者の皆さん、本当にありがとうございました。

今回は登山会後にアンケートの企画が！【山行で楽しんだ工程】もちろん登山の最中がダントツで、準備段階と登山後が半々。資料等でコースを間接体験した方の主体性には学ぶべきものが。【早朝５時集合に努力したこと】多くの方が寝過ごしを心配し、何度か目が覚め、目覚まし時計を頼みの綱に。【印象に残ったこと】もちろんアケボノツツジの群落。山頂からの眺望も。長い道中や凸凹山道も思い出の一つ。【今後の大崩山山行の希望】他の時季や別のコースも楽しみたいと半数以上が春・秋の山行を希望。今回の企画に感謝するとともにお世話してくださる方の負担も考え、定期ではなくても今後も大崩山の素晴らしさを知ってもらう機会を作ってほしいという声も多数。…と、この原稿を作成中に、『祖母・傾・大崩　ユネスコエコパークに』のニュースが！世界基準の認定により注目度が高まること必至。これも何かのお告げではと勝手に解釈し、次回の大崩山山行が益々待ち遠しくなった。

参加者…飯田勝之、久保洋一、牧野信江、浅野総一、尾家暁夫、安部可人、遠江洋子、岩崎真琴、清水道枝、清水久美子、松田信子、賀来和子、木下恵子、阿部恵子、神田美代子、田島和代

青年よ目標を持ち給え

星 子 貞 夫(8582)

新年度となり、人皆新たな気持ちで山行や技術の習得に希望を膨らませている事と思う。ここに私のささやか経験を語り、共感する所あれば幸いに思う。

私は 1982 年 11 月「大分山の会」を設立し 2015 年に会長職を辞した。当時入会した方々にスポーツ登山としての技術、技能を教えて安全かつ楽しい登山生活を過ごす様に心掛けた。

発足より５年が過ぎた 1988 年の忘年会で、有志者の発案でアルプス山脈の最高峰モンブラン 4807m に登ることになり、決定し発表した。希望者６名が

決まり、準備期間を 2 年間かけて、1990 年 7 月 14 日に出発することにした。まず体力の確認と鍛錬のため九重連山の「一筆書コース一日歩き」を３回行う。

次に登山技術として氷河と岩壁のミックスを想定してロック・クライミングとアイゼン歩行、雪上におけるアンザイレン歩行技術の習得、クレバス転落時のセルフ・レスキュウ技術の練習等を星生山で行い、阿蘇山北尾根(鷲ケ峰)の縦走を３回行って技術の習熟と精神力の鍛錬をする。

12 分走をして最大酸素摂取量を確認し向上を図る。登山に於ける生活技術の習得のため日帰り山行でも、前日の夕方に出発し、幕営した。

1989 年 1 月に伯耆大山の幕営登山、久住山での雪中ツエルト・ビバーク、最後の仕上げとして 1990 年 1 月 12 日～16 日に富士吉田町の「馬返し」より徒歩で登り、五合目佐藤小屋のテン場で幕営し、雪上に於ける滑落停止技術の訓練をして翌日富士山山頂を往復して徒歩で下山した。我々以外に登山者の姿はなかった。高山病に備え宇津宮氏の好意により低圧室で出発直前に低圧体験をした。

登山基地シャモニーで同市在住の故神保氏から「ノルマル・ルートは登山者が多く小屋に泊まれない。」とのアドバイスを受け、エギユードミデイーからモンブラン・デ・タキュルでビバークしてモンモデイーを縦走して山頂に達し、バロの小屋よりボソン氷河を下りグランミューレ小屋に泊まり、ケーブルの中間駅に下った。

更にスイスのツエルマットでブライトホルン、マッターホルンに登りユングフラウヨッホに遊び帰国した。マッターホルンを除きすべてガイドレス登山であつた。

山岳会に入会して5年の山経験の者達が死に物狂いでよく頑張ったと思う。まだ見ぬ憧れの地、近代登山の発祥の地、アルプス山脈の最高峰モンブランに登る、と言う目標があったから困難に耐えて出来たことだと思う。参加した女性のうち 2 名は後にアコンカグアに登頂し、デナリ(マッキンレイ)にも挑戦している。

『青年よ大志をいだけ』　クラーク博士　古人曰く　『為せば成る　為さねば　成らぬ　何事も　成らぬは　人の　為さぬなりけり』

大分百山完登

（No３）

大分百山を終えて

若 月 美 智 子（15735）

私は仕事を辞めて大分県別府市に単身移住をして３年になる。そして日本山岳会東九州支部への加入、とりわけ加藤支部長と出会う事となった。２年半程前のある日私は、予定していた登山が悪天候で牧ノ戸の現地で解散となり、せっかくここまで来たのにと思って、雨が止んだ由布岳を独りで登って下山していた時に加藤支部長達と会い、その後山行の誘いを受け、大分百山を目指しているひこさんクラブと上野丘高校１２期山の会の人達とご一緒させてもらうようになった。その人達の百山完登の瞬間に何度か立ち会わせてもらっているうちに、ちょうど１年前私も５０座に手が届いてしまったのである。

その時の仲間４人が、「じゃあ来年私達も百山完登して皆でお祝いをしよう。」って話がまとまり、去年の冬からは連絡を密に取り合い精力的に出かけて行った。１座１座クリアーして行き、半分過ぎるととても励みになり、目標があるという事は日々の張り合いとなった。大分百山の本に登った山をチェックする時はワクワクした。

雪の三俣山は空気が澄んでいて別世界だった。稲星山ではホワイトアウトに遭遇した。夏木山、華岳では思いがけないアクシデントがあり思い出す度身の毛がよだつ。ミヤマキリシマの平治岳、大船山。アケボノツツジの万年山、傾山。雨ニモ負ケズ祖母山、本谷山、渡神山。桑原山の急登も面白かった。振り返れば色々な記憶が蘇る。

山登りという行為は、まず気力が必要で心身共健康でないと登ろうという気が起きないのである。私にとってそこは、「出会い」であり「発見」であり「挑戦」である。そこで色んな人に沢山の大切な事を教わった。それは人生に置き換える事が出来る。そして人生はまだまだ続いて行くのだ。今回百山達成を迎えて、多くの仲間に囲

まれて楽しい時間を過ごさせてもらい、大きな喜びを感じる事が出来て、今年の私のトップニュースとなった。
加藤支部長には本当に尽力して頂いた。山頂で「若月さん、○○座バンザーイ、バンザーイ、バンザーイ」との掛け声は声が弾んだ。宮原さん、櫻井さん、土屋さんとの結束、清水さんとの連携、応援してくれた皆様にお礼申し上げます。
平成２８年１２月

より安全な登山のために　N025

『自救力アップ講習会』

安 東 桂 三　(9193)

日本山岳救助機構合同会社（JRO）の依頼により、自救力アップ講習会を開催した。6 月 16 日大分市のコンパルホールにて３時間弱程お話と実演をした。今までにいろいろな機会で人前で話すことはあったが、今回はいくつかの点で問題があった。

演題が『自救力アップ』ということ。私（安東）は、その自救力を正しく理解しているか。また、この講習会に誰が来るか？女性、男性？若年、中高年？どのような登山をする人？クライミングをする、しない？ハイキングしかしない？沢登りをする、しない？冬山をする、しない？どのような人が来るかにより、話す内容を考えねばならない。その２点が私にとって悩みの種だった。

特に冬山をする、しない？は私にとって岳人を判断する一番重要な基準となっている。まず山登りが自然と向き合う行為により成り立っているとすれば、夏山は登山道があり、登山道も見え、道しるべもあり、テープも見え、多くの登山者もいて、その分自然は少ない。一方雪が何メートルも積り、登山道も雪の下、道しるべも雪の下、テープももちろん見えない、登山者は皆無であれば、すべてが自然。厳しい自然、自分で進む方向を考え登る。これが山を楽しむ、自然を楽しむ、山から何かを得ることが出来る最高の楽しみだと思っている。

その冬山をするかしないかで、その人の登山力を推察し、話す内容を考える。私に今まで多くの方が、冬山に行きますと言ってきたが、九重の冬山や由布鶴見の冬山をする人ばかりで、私の考える冬山をやっている人は殆ど皆無。

誰が来るかが一番問題で、ある人には話す内容は難しく判らず、またある人には簡単でつまらない。一応話す原稿は作成して、講習会に望んだ。ただ気になることが二点あり、それを如何に伝えるかを悩んでいた。その二点は講習会の数日前に起こった屋久島の遭難事故と、那須ファミリースキー場での雪崩事故であった。

講習会が始まり、やはりこの２点を最初に喋ろう、また結論も先に述べようと、作った原稿は喋らずに始めた。

自救力アップ講習会に来られなかったＪＡＣ東九州支部の会員会友の皆様に、先の２点と結論だけをここで記述しようと思う。

６月１０日の屋久島の遭難事故は、渡渉中に２人が流されて死亡したもの。中高年の７名パーティが高塚小屋に宿泊して、翌朝下山。下山途中の沢は増水していた。そこにはワイヤーがあり、６７歳の男性リーダーが最初に渡り、次に６９歳の女性が渡り始めたが、その女性は流れに足をすくわれて流された。その女性を助けようとして、先の男性も流された。そして２人とも下流で心肺停止の状態で見つかった。簡単に話すと状況は以上のようだった。

そのような状況はどこでも有り得る。祖母山や傾山や大崩山などにはそのような状況は考えられる。増水した沢を同じような中高年パーティが渉ることは、皆さんにもあったかもしれない。たまたま今までに流されずにいただけで運が良かったのかもしれない。

そのような状況下で何をするか？それを考え、それを実行すれば自らの命を守ること、被害を最小限に食い止めることが出来る。講習会の参加者に少し考えてもらった。

まず渡渉をしない判断。雨が１時間当たり 40mm以上も降っている。予約した乗り物や予約した宿泊施設にたどり着くのと、命を失うことの二つを比べたら結論は明らか。渡渉をしないになってしまう。どうしても渡らなければならないなら、スリングなどで簡易ハーネス（安全ベルトのようなもの）を体に装着し、それと残置ワイヤーをカナビラで連結して、渉る。そうすれば流れに足をすくわれても流されない。その上で、

ロープで確保する。流れが強く歩けない状況でも、ロープで岸まで引き寄せることが出来る。

もし残置ワイヤーが無ければどうするか。持参のロープを誰かが（パーティで一番強い者）が最初にロープで確保されて渉り、ロープを両岸間に固定する。その固定も、渉る方から渉ってしまうほうに斜めに固定する。（文章では表現しにくいので、いつか機会があれば実演します）そして簡易ハーネスをカナビラで固定ロープにセットし順次渉る。

もしロープも何もない場合はどうするか。もし一人で渉る場合は支えとなるような木を探し、あるいはストック２本を１本の支えとなるように保持し、両足支えの３点の内、２点は、川底に支持するようして渉る。クライミングで言う３点支持と同じように２点支持で渉る。

数人いれば一人ずつ渉らない。例えば３人で肩を組んで渉る。一番慣れた人（あるいは強い人）が上流側、次が一番慣れてない人（弱い人）、下流側に二番目に慣れた人、そのようにして一人で渉るより３人で力を合わせて渉ればより安定して渉れる。

以上のように、ただ運を天に任せて渉るより考えて、手段を講じて渉れば死なないで良かったかもしれない。その考えると言うことを導き出すことを主眼においていた。それが伝わっただろうか。

那須の雪崩の件。多くの会員会友の皆様は、雪崩に遭遇してないかもしれないが、雪崩とはどのようなものかを知ることにより、雪崩の起こる冬山に行かなくても普通の登山の安全度が増すと思う。那須の雪崩の件は、メディアで多くが報告されているので、知っていると思うが、それは事故のことで、なぜ雪崩で死ななければならなかったかは正確に報道されてない。

まず雪崩に遭わなければ死なないので雪山に行かなければ良い。それが結論。雪崩はどこで起こるかを知ればそこを通過しなければ良い。雪崩はどこで起こるか。平坦では起こらないで斜面で起こる。平坦でも上部に斜面があれば雪崩れる。谷筋は雪崩れの巣。尾根は一応雪崩は起こらない。一応起こらないとした表記したのは、一部の山では尾根でも雪崩は起こる。それは冬の剱岳。もしそのような雪崩の発生しそうなところを通過せねばならない状況ならどうするかを、講習会で考えた。

雪崩の発生しそうな場所を通過する場合、もし雪崩が起こっても、被害を最小限に食い止めることが必要。雪崩がどこで起こるか？私は木が生えているか、生えてないかを良く見ている。一粒の種が地面に落ち、根を生やし、次第に大きな木に成長していく。もし大きな木があれば、その木が育つ間は大きな雪崩はなかったものと推察する。それが数百年の樹齢と推察されるなら、一応その場所は斜面であっても安全。もし木があっても、曲がったり歪であったらそこは雪の重みか雪崩が起こっている可能性があると判断する。またもし何もなければ(木がはえていてもおかしくないのに)、そこは周期的に雪崩が起こる可能性がある。そのようにして雪崩を感じ取る。

その雪崩を感じ取ったら、そこの通過は一人ずつとする。あとのメンバーは通過する人を見守り、あるいはその斜面の上部を見張り、雪崩発生が起これば大声で伝える。もし通過中の人が流されたら、流されていく場所を見て、埋まったら全員で掘り出し救助する。掘り出して必要ならば心臓マッサージ人工呼吸を行う。それで被害を少なくする。

雪崩れに遭遇し巻き込まれたら、雪崩れの中で泳ぎ（泳ぐようにもがき）、雪崩れの本流から逃れるようにする。それで雪崩れの末端（デブリ）までに、逃げ出す。もし逃げおせなくてデブリに埋まるようであれば、体の一部がデブリの上（雪面より）に出すようにする。また口の前（鼻の前）に空気のスペースを作り、助け出されるまでの空気を確保する。そのようにして助け出される。

集団で雪崩に遭遇したら、パーティはちりじりバラバラになって（まるで蜘蛛の子を散らすように）逃げる。ある一定方向に集団で逃げて、もしそこに雪崩の本流がきたら、全員埋まってしまう。それで終わり。ちりじりバラバラに逃げることにより、幾人かは助かる。それで助かった人が埋まった人を助ける。

以上のような雪崩遭遇の対策が取れる。それを知らないと助かるものも助からない。多くのメディアでは、那須ファミリー高原スキー場の高校生は、ビーコン（電波を発信する装置）を持ってないとばかり報道していた。ビーコンは雪崩れに埋まった人をその電波で探す装置であるが、一番は雪崩れに遭わないこと。二番は遭いそうな場所を避ける事。三番は遭った時の対処など。もう少し掘り下げてほしかった。高校生ら８名が亡くなった事故で大変な問題だが、我々登山を愛する人は他人事でなく深く考えておきたい。

以上の２件を例として他にも多くお話ししたが、自救力をいかに高めるかは、各人が努力することが安全な登山へと導くと結論した。講演会に参加したからと

いって自救力がついたわけでなく、講習会の話は解ったと思っても、同じような状況になるとは限らず、異なった状況での対処をしなければならないと言うこともある。

写真　2013年4月に遭遇した雪崩　御嶽山の2300m付近、面発生全層ブロック雪崩

月例山行

私の参加計画（前半）

三角点と山城探検シリーズ第２２回

安 部 可 人　（友11）

予想ルートと参考の為、安部の視点で歴史を述べる。全部「**九州百名山」三角点がよい**、「牛の峠」だけはまだ行っていません。

5 月「津波戸山」三等三角点　3 日前、太子像まで下見,一番の印象は2番目のため池の石積の丁寧さ。驚かす為会員宮本真理子さん宅を急襲した（主人留守)。話は弾んで 30 分。若月さんとドロミテに行く、肩の脱臼で重廣計画「波照間島」は断念したとか。宇佐の善光寺の娘さんはよくぞ向野（ムクノ）の田舎に嫁いだものだ。当日は地元主催行事であり、登山口まで宮本ジムニーで 25 分節約、安全な谷間を 4 人山頂まで行けた（**注**）駐車場南目前の「**向野城山**」ﾑｸﾉ **4 等 209.9**（城主松尾民部、黒田軍に降伏）は冬登城しよう。

6 月「求菩提山」　豊前は大内義隆滅亡まで宗麟が苦しんだところ、官兵衛に謀殺された宇都宮鎮房の「**城井郷城**ｷｲﾉｺ」**(写真**）は求菩提の西下、宇都宮氏味方の山城が派生する尾根にある（櫛狩屋・下河底)。統治した大内氏・黒田氏の古文書が「**資料館**」に展示され、同じ文面。豊臣秀吉禁制「一、くほて山対衆中、らうせき（狼藉）の事　一、本堂まハリ竹木採用（伐採）事　一、けんくわ・こうろんの事　右条々堅令停止,若違犯之背〈輩〉堅可成敗者也」　天正 15 年 11 月　黒田官兵衛　土地寄進状もあり寺院を保護している。官兵衛は家臣と花見、歌を詠んだ。又、托鉢の修験者へ後家さんたちの「ラブレター」(きわどい絵つき)あり。**（安部の登山）** 渡渉点に４駆駐車。植林の文化財の石畳道はブルで寸断され不快,「大竿峠１、９ｋ（登山口１，３ｋ）の標識」から急斜、 暗い。気味悪い悪路、崖３ｍをトラヴァースできず、「夫婦滝」は永遠に幻となった。「求菩提」は全容を１時間で見学した。「氷室」、「修験者の宿坊一軒」、下界との分かれ目の「竜の飲み口」、「国見山」登山路入口などです。

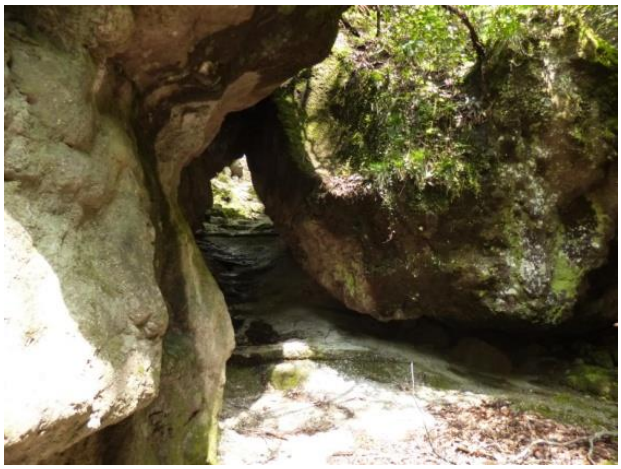
7 月「五葉岳」三等三角点　日影川の中村橋から日隠林道利用～大吹鉱山跡駐車～山シャクヤクの谷～五葉岳（鹿納山はさらに楽２時間)、宇目鉱山の大切峠の「**女人墓**」（女郎の墓改め）と同じく、農家の娘たちが山越え、鉱夫の為にお化粧をしたという「**お化粧山**」は悲しい辺境の地まで「下見」の中野ﾘｰﾀﾞｰに感謝。**（安部の登山）** 親指の付け根古傷やや痛み老人は気になる。あまり歩かない。

8 月「中岳」 地形図「久住山」ガンジ―牧場あたり「**くたみ**わかれ」と昔の登山地図にあった。岳麓寺には「**朽網宗暦**」の墓あり（その田んぼが寺跡、墓石が埋まる)、県下 5 指の宗暦の「**山野城**」**（写真）** が有氏の東牧野道（一方交通）沿いにあり、宗麟衰退期を支えた勇将は「朽網ｸﾀﾐ」の名を全く残さなかった。なお、「くたみわかれ」～佐渡の窪～鉾立峠～住民は法華院参りに

行った。「山野城」はあの島津義弘が越冬、上峠～男池～朝日台～野上城本陣へ。90 歳で登山の橋本先生は 100 歳を越えたようです。

9 月「牛の峠」一等三角点　地形図「尾平野・山王原」昨年台風で延期　都城と飫肥を結ぶ歴史の峠、境界争いもあった。本物の昔峠は北１ｋｍにあり、廃道不明。1572 年、九州の桶狭間の戦「木崎原戦」（3 泊）、高千穂が見える小林・えびの飯野で島津に仕掛けた伊東義祐ヨシスケは罠にはまって敗北、盟友宗麟の豊後国に亡命した（のち四国へ）。伊東氏の「**飫肥城**」にかける執念は凄い。義祐三男の祐兵は秀吉の家臣となり、103 年間の争奪に終止符、奪還して明治に続いた。

10 月「天山」「彦岳」一等三角点　地形図「古湯・小城」小城羊羹の産地です。天高い空の時期は絶好です。多久に下って、浪瀬の「**獅子ヶ城**」は車で上がれて九州一番是非お勧めです（あんべよしと）



（類のない特異な表門「城井郷城」）

（久住の有氏・宗暦の山野城）

私の無名山ガイドブック N065

栃野 (631.1m)　祝川 (741.9m)

飯田勝之　（10912）

今回も津江の無名のピークだ。それも、よほどの物好きでないと登らないと思われる、超マイナーなピークだ。それだけに勿論定まったルートはおろか、ほとんど踏み跡もない急斜面の登りで、眺望もなくただきついだけの、何の取り柄もいないが、達成感だけはひとしおだが・・・。

栃　野

渡神岳から東に派生する稜線は、石建峠から北に曲がり、２等三角点のある赤松塚の東から二つの支稜線に分かれる。その中の東に延びる支稜線上の端近くにあるのがこのピークで、ここから急斜面で松原ダムへと落ち込んでいく、その手前の肩の部分だ。山頂には四等三角点がある。

国道２１２号の松原ダム湖畔の梁瀬から西の斜面へ、谷間に沿って上る林道がある。この道を上り、国道から 600m ほど行った緩い左カーブ（左側にシイタケホダ場がある）の右側に、谷状の急斜面にまっすぐ登る草深い作業道があるのでこれを登るとよい。枯沢に沿って延びる作業道はかなりの急斜面で深い草に被われているが、これをひたすら直登していくと１５分ほどで右に鋭角に折れて、その先をまた左に鋭角に、Z 字形に登っていくと、やがて作業道は終点となる。

そこからは左（北）のスギの幼木林の急斜面をまっすぐ登ると良い。草深い斜面と登るとほどなく灌木林の中にはいる。やや枝だがうるさいが、これもひたすらまっすぐに灌木のブッシュを分けて登ると、作業道終点から１５分で巨岩の壁が現れるので、登りやすい岩の間を登っていくとやがて山頂の一角に着く。三角点はそこから１２０ｍほど西で、小さく下って緩く登った所にある。

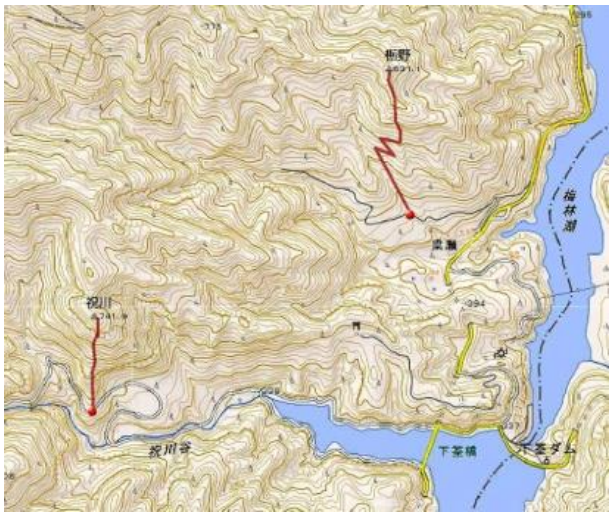
祝　川

前述の赤松塚の西のピークから南東に分派する支稜線があり、これも同じく松原ダム向かって高度を下げていくが、その途中から南の谷間にコブのようにせり出した台地がこの地点である。このピークへは地図で見ると、下の林道から水平距離では３００ｍ弱で、至極簡単に達せられそうだが、よく見るとそう簡単に登りつけそうな地形ではない。実際に筆者が現地に行っ

て登り口を探したが、なかなか容易に取り付けるところが見当たらなかった。「点の記」を見ると平成１４年に西の谷側から巻いて５０分で登っているようだが、そのようなルートは今は無理だ。現地でいくつかの地点から挑戦したが、結局ここで紹介するルートが一番容易に思える。

下筌ダムの下筌橋から湖畔の旧国道を入り、一番奥から祝川に沿って林道を遡ると、橋から２．２ｋｍほどの所の右カーブ地点がとりつき地点によい。小さな崖をよじ登るとすぐに低灌木のブッシュがお出迎え。これを分けながら緩斜面を高い方へと行くと、稜線状の斜面となり傾斜がきつくなる。この稜線状の斜面をひたすら直登していく。低灌木のブッシュは、さほど濃くはないが、それよりも急登に次ぐ急登だ。ひたすら登っていく。一旦緩くなり、ひと息入れて登ると再び急な登りだ。このあたりから山腹の広い斜面の登りなので、下りルートを間違えないように、自分のマークが必要だ。（紙テープか木の枝を折るなど・・。ビニールテープは下山時に撤去する時に見落とす場合もあるので厳禁）

１時間ほど登ると岩壁が現れるが、ちょっと迂回すれば容易に登れる。適当に踏み場を探しながらよじ登れば、まるい広い鈍頂に達する。そのほぼ中ほどに三角点がある。



（２５０００分の１地図：鯛生）

参考タイム…林道→３０分→作業道終点→25分→栃野三角点山頂

参考タイム…林道→６０分→祝川三角点山頂

会務報告

平成２９年度
本部通常総会報告

支部長　加藤英彦（8765）

日時　平成２９年６月２４日（土）午後２時より

場所　東京都千代田区　主婦会館　プラザエフ９階

午後１時４０分　受付を済ませると、あなたは１１名の方から委任を受けておりますと、その１１名の会員の名前を記載された一覧表をもらい席に付く。あらかじめ郵送された総会資料を持参。出席の方はその資料を持参くださいと書いてある。

午後２時定刻開会。司会者総務委員会佐藤氏。小林会長挨拶。要旨は、昨年は３つの事業を展開した。そして２年が経過した。制度設計、会員サービス事業、収益事業、この３つだ。それぞれ成果がではじめている。会員数減少は下げ止まりとみていい。会員増強、永年会員の寄付も赤字解消に役立った。役員改選もある。今日の総会よろしくご審議おねがいしたい。

議長は定款の定めによって会長が務める。定足数の確認。出席１４４名、委任状９８２名、議決権行使２０４６名　合計３１７２名（６３．８％）　３分の２以上となり総会成立の報告

議事に入り資料よりすすめていく。総務担当佐藤氏

第１号議案　平成２８年度事業報告承認の件（この報告については皆さんも資料を読んでください）登山振興事業、登山講習会、「山の日」制定に伴う各支部と連携して広報活動、マナスル初登頂６０周年記念事業、障がい者支援登山等、山岳研究調査事業、山岳環境保全事業等は自然保護全国集会の報告あり。

会員動向　２９年３月末における会員数４９８３名。２０９名の新入会員と３４名の準会員の入会があった。寄付受け入れ、４６５５万円の寄付があった。

第２号議案　平成２８年度決算報告承認の件。財務担当吉川理事よりくわしく数字の報告と説明がおこなわれた。その後監査報告。　平井、重廣良監事よりの報

告あり。そして挙手の結果、第１号議案、第２号議案一括して賛成多数にて承認された。
第３号議案　役員選任の件は予め用意された１５名の理事と２名の監事の発表がありこれも挙手にて賛成多数で承認さ、その後に新しい理事でもって会長選任の臨時理事会があるむねつたえられた。
報告事項として平成２９年度事業計画及び予算の発表があり、その後に質疑の時間をとった。質問を列挙すると、海外登山隊への寄付の問題、公益法人化された時どうなったか。環境保全事業への取り組みについて、図書管理費とは何か、図書室を維持する費用、減価償却費も含む。冬山天気予報とあるが冬山の定義は、年末、年始、ゴールデンウイークだ。４００名の永年会員に対する寄付のお願いについて、あてにするのはおかしいのでは。そのうち１３４名の方から寄付があったとの説明あり。まさに良識がいきているということだ。追悼文が『山』に掲載された方はその遺族にその『山』をおくっているのか。会員名簿をなぜ作成しないのか、等の質問があった。
ここからは会務の報告　支部長交代の支部が８名あった。今日限りで退任する役員７名の紹介があった。２時間３０分、４時３０分総会終了。
そのあと場所をかえて７Ｆにて懇親会。会費３，５００円。臨時理事会をまたずに始める。しばし顔馴染みの方々と歓談。宮崎紘一さん、山の日の制定に尽力された成川さん、そして旧知の古市さん等、そうこうしているうちに臨時理事会が終わり新しい役員の方々が入場され新役員の発表、挨拶があった。
会長…小林政志（留任）、副会長…重廣恒夫。重廣新副会長よりあいさつがあった。それと東九州支部にかって５年在籍していた安井康夫さんが新しく理事となられた。重廣さん、安井さんにはおめでとうございます、頑張ってくださいとご挨拶。東京海上ＯＢの清登緑郎さんというかたが新しく理事となったのでこの方とも

（詳細・最終頁参照）
門講座の講師を依頼したところ快諾していただいた宮名刺交換をして挨拶。最後に９月の東九州支部の登山入崎紘一さんによろしくおねがいしますとご挨拶して退席した。５時４５分

（新役員の紹介）

支部の会議報告

支部役員会

第1回役員会　5月１２日（金）コンパルホール
1. 平成２９年度事業の具体的な推進について
2. 第5回登山入門教室について
3. 青少年体験登山大会について
3. 年間月例山行実施計画について
4. その他

第2回役員会　6月９日（金）コンパルホール
1. 第5回登山入門教室のについて
2. 山の日」登山について.
3. その他

山の日登山実行委員会

第1回　5月１５日（木）コンパルホール
・県岳連が日山協から取り組みの示唆がなされている「山の日にちなんで**ふるさとの山を登ろう**」というテーマに沿って、県内山岳4団体も共同で取り組むこととなった。
（詳細・最終頁参照）

お知らせコーナー

月例山行のご案内

8月月例山行：九重山の安全を祈る集い

日　時…8月6日（日）
集合場所…久住御池避難小屋上の遭難慰霊碑前

9月月例山行：牛の峠(918.0m)　男鈴山(783.4m)

日　時…9月１６日(土)１７日（日）
出　発…9月１６日(土)午前6時00分
集合場所…大分駅、上野の森口

装　備‥シュラフ、行動食ほかハイキング装備（テントお持ちの方はご連絡下さい）
参加申込は９月８日までに
リーダー：飯田勝之（0977-21-3437・090-2503-8409）まで
メール　yamatomoki@ari.bbiq.jp

10月月例山行：天山（1046.1m）・彦岳（845.2m）

日　時‥１０月２９日（日）
出　発‥１０月２９日（日土）午前6時00分
集合場所‥大分駅、上野の森口
装　備‥日帰りハイキング装備
参加申込は１０月２０日までに
リーダー：田所歳朗（097-532-6744・070-2388-8769）まで
メール　ta.koro@eweb.ne.jp

11月月例山行：宗像四塚（湯川山・孔大寺山ほか）

日　時‥１１月２３日（木）
出　発‥１１月２３日（木）午前6時00分
集合場所‥大分駅、上野の森口
装　備‥日帰りハイキング装備
参加申込は１１月１５日までに
リーダー：木本義雄（097-551-9117・090-1465-5696）まで
メール　kimotopapa@beach.ocn.ne.jp

研修山行のご案内

8月　サマン谷沢登り（応用篇）

日　時‥8月１９日（土）
集合場所‥祖母山尾平登山口駐車場・9:00集合
装　備‥ヘルメット・ハーネス・沢シューズ・カラビナ・ビレイディバイス・スリング等）
問い合わせ・参加申込　いずれも、安東桂三まで
090-5727-9472
メール　keizoando@xa3.so-net.ne.jp

第5回登山入門教室

実施期間　9月から1月
座学講座　９月20日（水）
実践講座　10月から1月に4回実施
受講料　5,000円程度
定　員　30名程度
募集期間　9月4日（月）まで
受講対象者　登山の初心者を対象とする
講座の場所　座学講座　「ホルトホール大分」
受講申し込み及び問い合わせ先
住所・氏名・生年月日・電話番号を明記し郵便・FAXまたはメールで下記宛申し込んで下さい。
東九州支部事務局　別府市原町5－14　飯田方
Tel・Fax 0977-21-3437　Mobile090-2503-8409
※　初心者向けの講座ですので、会員・会友の皆さんのお知り合いなどに勧めて下さい。
※　また、会友の方で入門コースを受講していない方は奮って受講して下さい。

第16回青少年体験登山

実施期日‥‥平成29年9月10日（日）
登山コース‥久住山ほか。参加者の自己申告により、「のんびり組・牧ノ戸峠～久住山往復」「元気組・牧ノ戸峠～星生山～久住山～牧ノ戸峠」「健脚組・牧ノ戸峠～久住別れ～中岳～久住山～星生山～牧ノ戸峠」）
集　合‥午前7時・大分駅北口貸し切りバス発着ブース（北口を出て左側広場）
現地参加者は牧ノ戸峠、午前8時30
参加費‥2,000円（高校生以下‥500円）
現地参加者‥300円（牧ノ戸峠集合）
受講申し込み及び問い合わせ先
8月18日までに住所・氏名・生年月日・電話番号を明記し郵便・FAxまたはメールで下記宛申し込んで下さい。
東九州支部事務局　別府市原町5－14　飯田方
Tel・Fax 0977-21-3437　Mobile090-2503-8409
※　支部会員（会員・準会員・会友）の皆さんは、参加者の引率や同行登山で積極的にご参加下さい。（参加できる方は8月28日までに事務局へ）

スズタケ枯死・シカの食害調査
参加者募集

日　時‥9月30日（土）
場　所‥本谷山西の稜線の定点観測地点
集　合‥午前7時「道の駅・原尻の滝」

行　動…尾平越トンネル口から旧尾平越に登り、定点観測地点で、大分植物研究会の皆さんと共同作業。
参加者…参加できる方は9月22日(金)までに支部事務局へご連絡ください。
（飯田…090-2503-8409）

清掃登山と合宿交歓会

毎年ルートを変えて九重山の登山道の清掃登山を実施し、その夜は合宿で交歓する催しです。支部会員の皆様多数のご参加をお待ちしています。

日　時　１０月２１日（土）～２２日（日）
合宿場所　坊がツル「あせび小屋」
清掃場所　九重山登山道
参加希望　参加希望者は１０月１３日（金）までに
支部事務局　別府市原町5－14　飯田勝之
TelFax0977-21-3437
Mobile090-2503-8409

大船山のミヤマキリシマ保護 ボランティア参加募集

今年も１０月に実施の予定です。参加できそうな方はあらかじめ事務局へご連絡下さい。具体的計画が決まったら日時・場所・参加方法などをご連絡いたします。

韓国山岳会蔚山支部との交流会

日　時…１０月7日（土）～8日（日）
交流山行（予定）
7日（土）：泉水山・黒岩山
8日（日）：三俣山
交流会と懇親会
日　時…7日（土）午後６時から
会　場…筋湯温泉「八丁原ヴューホテル」
参加費…１２，０００円（宿泊朝食込み）

参加者募集…大勢の皆さんで韓国の岳人仲間を歓迎しましょう。**参加希望者は支部報同封の案内書で事前申し込み（期限８月３１日）をお願いします。**申込まれた方には後日詳しい参加案内をお送りします。

第３２回宮崎ウエストン祭

主催　高千穂町、日本山岳会宮崎支部
日時　１１月3日(金)４日（土）
場所　高千穂町五ケ所高原・三秀台
参加申し込み　参加できる方は９月３０日(土)までに事務局へご連絡下さい。

熊本支部創立６０周年記念式典

・記念登山

日　時　１１月１８日（土）１９日(日)
場　所　式典　熊本市「アークホテル」
日　程(１８日)受　付　１４：００～１５：００
記念式典　１５：００～１５：３０
記念講演　１５：３０～１７：００
祝賀会　１８：００～
記念登山(１９日)　鞍岳
Ａコース　外輪山より(５時間)
Ｂコース　山頂直下から(３０分)
参加費　１６，０００円
参加申し込み　参加できる方は８月９日までに事務局へご連絡下さい。

第3回支部役員会の開催案内

平成２８年度第3回支部役員会を下記の通り開催しますので役員の方はご参集下さい。

日　時…7月21日（金）午後6時00分より
場　所…大分市「コンパルホール」
議　題…① 登山入門教室について
② 青少年体験登山など当面の計画について
③ 韓国山岳会蔚山支部との交流について
④ その他

第8回

くじゅう・山の安全を祈る集い

毎年８月の第１日曜日に開かれている「くじゅう・山の安全を祈る集い」は、今年で８回目を迎えます。今年も８０年前の九重山で始めて遭難死した若者の慰霊碑前で、安全登山と遭難者の慰霊を行う安全祈願祭を公益社団法人日本山岳会東九州支部と法華院温泉山荘が共催で行います。

（写真は昨年の集いの様子）

日　時　８月６日（日）午前１１時から

場　所　久住山御池南の遭難慰霊碑前
（雨天の場合は御池避難小屋にて）

参加対象　山登りが好きで、山の安全登山を考える人はどなたでも参加できます。ご一緒に参加し、山の安全をお祈りしましょう

参加方法　午前１１時までに現地集合といたします。

問い合わせ等　東九州支部　支部長　加藤英彦（097-543-0333・090-3607-7903）または事務局長　飯田勝之（0977-21-3437・090-2503-8409）まで

山の日登山

ふるさとの山を登ろう in おおいた　霊山

夏です、山の日です、みなさん友達などを誘って、ご一緒に登りませんか！！

登る山：霊山(大分市)

集合日時：８月１１日(金)午前９時

集合場所：大分市七瀬川自然公園駐車場

コースと予定：9:30 駐車場出発～秋岡経由～霊山山頂(12:00~13:00)～内稙田経由～15:00 駐車場へ下山

参加方法

どなたでも自由に参加できます。当日午前９時までにお集まり下さい。参加された方で、みんなで揃って登山します

参加費：無料

装備など　：　日帰り登山の服装や装備と食料・飲料・雨具など各自でご準備下さい

雨天中止　：　雨天中止などは当日朝の大分県山岳連盟のブログでお確かめ下さい

主　催　大分県山の日登山実行委員会（大分県山岳連盟・公益社団法人日本山岳会東九州支部・大分勤労者山岳連盟・全九州アルパインガイドクラブ）

共　催　総合型地域スポーツクラブわさだ夢クラブ

後　援　一般財団法人全国山の日協議会

全国山の日協議会

後　記

・平成２９年度ももう４分の１が過ぎた。総会で決　めた年間事業計画の実施期日が迫って来る度に、支部会員の何人が参加してくれるかなあ。どんな人たちが参加してくれるだろうか、この行事にはこんな顔ぶれ、この行事にはこんな顔ぶれかな・・。全く音沙汰のない人も居るなぁ・・・などと。

・このごろの月例山行に顔を出す人の顔ぶれは、お　おむね決まっている。私はほぼ３０年間、ずっと月例山行には出来るだけ参加するように努力してきた。楽しむための山登りに、努力というのはおかしいが、やはり参加するから楽しみがあるからだ。

・ずっと以前から、月例山行に参加する顔ぶれは、ある程度決まっていた。思えば、まるで流行の移り変わりのように、顔ぶれが移り変わってきているのだ。だからああ、あの頃のあの山に登って、あんなことがあったなあ、あの頃はあんな人たちが何時も顔を出していたなあと年月を追って思い出す顔ぶれも変わる。

・思い出されてくる顔ぶれの中には、もう故人とな　られた人や、会から退いた人もいる。特に会友の顔ぶれはずいぶん変わってきている。ある頃、いつも必ず参加していた人が、何時しか退会してしまったり・・・。いまはどうしてるのやら・・・。以前は何時も参加していた会員、このごろは全く顔を見せない・・・。月例山行の顔ぶれを思うと、支部の歴史の変遷のように思われる。（Ｋ・Ｉ）

公益社団法人日本山岳会東九州支部
東 九 州 支 部 報　第７８号
２０１７年（平成２９年）７月２５日発行
発行者　加 藤 英 彦
編集者　飯 田 勝 之
印刷所　佐伯印刷株式会社
発行所　事務局
〒874-0820 別府市原町５－１４　飯田方
TEL・FAX　0977-21-3437
E－mail　yamatomoki@ari.bbiq.jp